

障害学生支援コーディネーター養成・研修カリキュラム 【初級】

	科目	学習のねらい	指導項目
聴	聴覚障害者理解Ⅰ	基本的な定義、用語を学ぶ	・「聞こえない」「聞こえにくい」とは（定義、障害者手帳、デシベル、伝音性・感音性）
聴	聴覚障害者理解Ⅱ	生育歴、教育歴による「聴覚障害」者のバリエーションを学ぶ	・大学入学までのさまざまなライフコース ・コミュニケーション手段
聴	聴覚障害者理解Ⅲ	本人以外の周囲の問題としての「聴覚障害」とは何か、「聴覚障害」による障壁・不利益を学ぶ	・「聞こえない」「聞こえにくい」ことによる社会的障壁とは ・大学にある社会的障壁とは ・医学モデルと社会モデルの考え方 ・健聴者と難聴・ろう者の文化の違い
聴	聴覚障害学生の心理特性Ⅰ	障害の程度による相違による相違について理解する	障害の程度（軽度、中等度、重度、中途失聴者）
聴	聴覚障害学生の心理特性Ⅱ	生育歴による相違を理解する （家庭環境・教育歴・教育環境）	家庭環境 ・家庭での「親子」「兄弟」関係について ・家庭教育について 教育環境 ・聾学校出身者 ・インテグレーション出身者 ・聾学校へUターンする子どもたち
聴	聴覚障害学生支援論Ⅰ	聴覚障害学生に必要な支援について学ぶ	・聴覚障害学生に必要な支援とは？ ・支援の範囲・方法（情報保障、代替措置、チューター、個別指導、ビデオ字幕の作成等）
聴	情報保障論Ⅰ	修学支援を行うための情報保障の必要性を学ぶ	・情報保障とは？（大学における情報保障の特性）
聴	情報保障の実際Ⅰ	情報保障の方法について、具体的にどんな手段があるか、どんな場面に適しているか学ぶ	情報保障の方法について ・ノートテイク ・パソコンノートテイク ・手話通訳
聴	情報保障者の確保と運用Ⅰ	情報保障者をどう確保するかについて学ぶ	・各情報保障手段における情報保障者の確保の仕方（学内で養成するか？外部に依頼するか？等） 例）ノートテイク→学内養成、手話通訳→外部団体へ依頼 ※運用例
コミ	聴覚障害学生のニーズ把握	聴覚障害学生のニーズ把握のためのアプローチとして、アセスメントについて学ぶ	・聴覚障害学生の状況を知るための手法（面談、行動観察等）と把握すべき情報 ・話を引き出すために ・モチベーションを持続または向上するために ・目標の明確化
コミ	信頼関係作りⅠ	学生からの相談にのるためのコミュニケーション手法として、傾聴的態度について学ぶ	・傾聴的態度とは
コミ	聴覚障害学生とのコミュニケーション実践Ⅰ	聴覚障害者のさまざまなコミュニケーションストラテジーについて実践を通して学ぶ	・ボディランゲージや筆談等を用いたコミュニケーションの実践 ・聴覚障害者に分かりやすく伝える技術
マネ	大学組織理解	現在の高等教育を取り巻く環境、高等教育に求められる役割を理解するとともに、自らのいるフィールドをマクロの視点で理解し、自分の属する大学特有のミッションを理解する。あわせて現在の学生の実態や傾向を理解し、どのように障害学生支援をしていくかを考える	・高等教育論（大学マネジメント論、大学の社会的責任、高等教育の歴史・21世紀の大学の問題、現代学生論を含む） ・学生支援論（学生相談研究、ダイバーシティ論を含む）
マネ	障害学生支援関連法律	現在の高等教育ならびに障害者施策に関連する法律について学ぶとともに、法律にまつわるリスクマネジメントについて理解する	・大学組織に関連する法律（教育基本法、国立大学法人法、学校教育法、私立学校法、大学設置基準（省令）等）・障害者施策に関連する法律（障害者権利条約、障害者基本法改正、障害者自立支援法等） ・障害学生支援制度を運営していく上で知っておくべき法律とリスクマネジメント（著作権法、個人情報保護法等）

2011-09-28

障害学生支援コーディネーター養成・研修カリキュラム 【中級】

	科目	学習のねらい	指導項目	講師案
聴	聴覚障害者理解Ⅳ	教員、職員、支援学生に「聴覚障害」とは何かを伝えるための方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターの立ち位置の確認 ・大学にある社会的障壁の伝え方 ・本人のコミット方法 ・「聴覚障害」と合理的配慮 	聴者・ろう者（手話のできる人）の2名
聴	聴覚障害学生のエンパワーメントⅠ	大学での支援をエンパワーメントの視点から、考えられるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・エンパワーメントの意味とその必要性 ・エンパワーメントについて ・未表出エンパワーメント 	ろう者
聴	聴覚障害学生のエンパワーメントⅡ	個々のバックグラウンドや様々な経験からエンパワーメントを理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・エンパワーメントに至るまで ・エンパワーメントの時期 ・エンパワーメントのきっかけ 	
聴	聴覚障害学生支援論Ⅱ	支援をする学生、利用する学生を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・教育保障を目指した支援とは？（主体性を引き出す支援） 	事例を基に検討。講師を特におかない
聴	情報保障論Ⅱ	修学支援を行うための情報保障手段を体験から学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・情報保障手段の体験 	大きな大学のコーディネーター 理論： 実践：
聴	情報保障の実際Ⅱ	情報保障手段の選択の仕方を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・各情報保障手段の場面による使い分けについて（個人のニーズにおける使い分けについて） 例）講義形式・ゼミ・実技（実習）など ※場面の事例 	
聴	情報保障者の確保と運用Ⅱ	情報保障者の確保の仕方と運用方法について、それぞれのメリット・デメリットを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・情報保障者の確保の仕方及び運用方法におけるそれぞれのメリット・デメリットについて 例）外部派遣を利用→コスト高、学内養成→長期的な運用可 ※運用例 	
コミ	信頼関係作りⅡ	信頼関係を形成するための手法としてコーチングを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・コーチングの考え方と効果的な声かけ ・学生の行動観察 ・学生の関心と目的意識を明確にし主張を認める 	
コミ	教員とのコミュニケーション	教員の理解を得るために効果的なコミュニケーションについて学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の役割 ・教員の立場を尊重した説明と交渉 ・明確な説明と情報提供（論理的説明技術） 	
コミ	トラブル対応Ⅰ	トラブルの分析とその予防 トラブルの事例とトラブルを起こさないための知識について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・職務内容・考え方の尊重（心情理解と学ぶ姿勢） ・立場・関係を尊重した断り方と指導 ・トラブルの分析 ・リスク評価（出てきたリスクの発生頻度とインパクトを表にまとめる） ・リスク対応（それぞれについて対応策を考える） 	クレーム対応研修、アサーティブ対応研修をしている団体に講師依頼
	トラブル対応Ⅱ	トラブルが起きてしまった時の対処法（対策）について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・交渉術とアサーティブコミュニケーション ・Win&Winの解決 ・次につなげる発想力 	
コミ	支援室からの情報発信	支援者の募集や理解啓発を促すための、支援室からの効果的な情報発信について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・各種PR（学内、学外）の効果的な方法 ・立ち寄りやすい支援室の場作り 	テーマを参加者に事前配布。当日GRで考えて発表。それに対してコメントをもらう。 コメンテーター：プレゼンのプロなど進行役が必要
コミ	聴覚障害学生とのコミュニケーション実践Ⅱ	手話でのコミュニケーションを目指し、その基礎を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・手話を用いたコミュニケーションの実践 	
マネ	リーダーシップ論Ⅰ	障害学生、支援学生、教職員に対して意図的にアプローチしていくための基礎理論について学習する	<ul style="list-style-type: none"> ・学生にとっての支援活動と成長 ・利用学生・支援学生の変化 ・コーディネーターの役割 利用学生を含め関係する学生が支援活動を通して成果を出し、次に取り組む役割を見出す過程にコーディネーターが果たす機能	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・ロールプレイ

2011-09-28

障害学生支援コーディネーター養成・研修カリキュラム 【上級】

	科目	学習のねらい	指導項目
聴	聴覚障害学生のエンパワーメントⅢ	コーディネーターとして個々に応じた精神的支援の必要性を理解する	エンパワーメント支援 ・個々に応じた支援 ・個人プログラムの作成（例：意見を言う・聞く・話す、成功体験と失敗体験、自主性を育てる、他障害との交流）
聴	情報保障論Ⅲ	修学支援を行うための情報保障の意義と聴覚障害学生の学習について学ぶ	・教育支援としての情報保障 ・聴覚障害学生の学習の仕方の理解
聴	情報保障の方法Ⅲ	様々な情報保障手段の組み合わせ方やその効果を学ぶ	・各手段の組み合わせ方について 例) 授業形態・個人のニーズに合わせた組み合わせ ※組み合わせの事例
聴	情報保障の方法Ⅳ	先端技術を使った情報保障の方法について学ぶ	先端技術を活用した情報保障の方法について（遠隔地での情報保障、iPhoneを活用した情報保障、音声認識通訳）
聴	情報保障者の確保と運用Ⅲ	体制構築に当たってのポイントを学ぶ	・大学のポリシー形成を見据えた体制構築について 例) 支援学生は有償か無償か
コミ	モラルとマナーの指導	学生に対するコーディネーターとしての規範的態度と社会的モラルの指導について学ぶ	・ルールの説明・指導（連絡方法など） ・モラルが必要な理由 ・コーディネーターとしての姿勢
コミ	信頼関係作りⅢ	支援に関わるチームコミュニティの学びと成長のためのアプローチを学ぶ	・チーム形成のために ・チームとしての自覚とモチベーションを促すために
コミ	情報共有とネットワーク作り	コーディネーター間や支援室内での情報共有、学外との情報共有など、ネットワークキングの際に必要な技術を学ぶとともに、運営にあたって必要な交渉と準備について学ぶ。さらに学外資源と具体的な団体名を知り、学外資源を効果的かつ安全に活用するためのポイントについて学ぶ	・スムーズな連絡・情報共有による業務の広がり ・情報共有と連絡・相談のコツ ・業務に活用できる知識 ・ツールを活用した他部署との連携 ・支援における交渉と必要な準備 ・学外資源の照会と種別分析 ・学外資源活用の留意点
コミ	コーディネーターのセルフマネジメント	コーディネーターとしてのメンタルヘルスにつなげるセルフマネジメントについて学ぶ	・人と対応する職業人のためのセルフマネジメント ・障害のある人の特性を受容するためのセルフマネジメント ・気持ちを切り替える技術
コミ	聴覚障害学生とのコミュニケーション実践Ⅲ	同Ⅱにつづき、手話でのコミュニケーションを目指し、その基礎を学ぶ	・手話を用いたコミュニケーションの実践
マネ	プロジェクトマネジメント	支援制度の企画立案、運営をより効果的に行うためにプロジェクトマネジメントのいくつかの手法を学ぶ	・プロジェクトマネジメントにおける計画プロセス（ステークホルダーの特定、作業分解・見積もり、スケジュール作成、リスク・マネジメント等） ・プロジェクト・チームの育成（人間形成スキル、行動規範、チームのパフォーマンス評価、観察と会話、コンフリクト・マネジメント） ・プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント（コミュニケーション手段、情報配布ツール） ・ステークホルダーの期待のマネジメント（人間関係のスキル、コミュニケーション手段）
マネ	プログラム評価	障害学生支援室の運営は、各大学の教育目的や運営理念と不可分ではなく、何を持って制度の運営が「成功」とされるかは、各大学によって異なる。しかしながら、その「成功」は主観的に判断されるべきものではなく、可能な限り客観的に評価されることが望ましい。ここでは、プログラム評価のいくつかの手法を学び、実際に運営している制度を評価することで、よりよいマネジメントを行っていくことを目標とする	・大学と「評価」 ・様々な評価方法（アセスメント） （インタビュー法、統計的手法、アンケート調査法、フォーカスグループ、内容分析、ルブリック、ポートフォリオ、SWOT分析） ・プログラム評価の実際 ・プログラム評価の実践
マネ	支援組織のガバナンス	大学組織全体から俯瞰した時の支援システムの位置づけについて認識するとともに、大学組織の特殊性や組織が支援システムに与える影響力について学ぶ	・ガバナンス論（組織図作り）と交渉・対話力 ・大学組織の構造 ・支援方針・体制 参考文献：大学のマネジメント市場と組織（リーディングス日本の高等教育第7巻）米澤彰純著
マネ	障害者雇用とキャリア支援	・障害者就労にまつわる法制度と現状、就労の実態や、企業が障害を持つ人材に求めることを学び、その要求レベルに到達するために、在学中の支援を通じて、障害学生が何を覚悟し、準備しなければならないかを把握する。また、障害学生が、社会人としての力を養うために役立つ支援方針を検討する	・キャリア支援論 ・障害者雇用の実態 ・特例子会社事例 ・障害学生のキャリア支援について（在学中にできること）
マネ	リーダーシップ論Ⅱ	実際の事例を通してリーダーシップ効果や必要性を学び、コーディネーターとして必要なリーダーシップとは何かを学ぶ	・組織的な支援活動で期待されるコーディネーターの役割 ・リーダー論に学ぶ～「サーバントリーダーシップ」 事例検討・ディスカッション

2011-09-28